

講義コード	4J006022
講義名	アロマセラピー
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J4-2415
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山原 正美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

山原 正美（アロマセラピーアドバイザー、アロマセラピーインストラクター、アロマセラピスト）

目的

医療に従事する者として、まず自分の心身の健康を自分自身で管理し、増進することが大切です。その一つの方法として、古代から植物の香りを利用して医療にも役立てられていたアロマセラピーについての基礎的な理論と日常生活や臨床現場で役立つ実践的な方法を学んでいきます。また、アロマセラピー検定（日本アロマ環境協会）の内容にも対応した講義を行っていきます。

到達目標

アロマセラピー検定1級とアロマセラピーアドバイザーの資格を取得し、アロマセラピーを活かし自分自身の心身の健康管理・増進し、また、多くの人の心身の健康増進にアドバイスなどができる医療人となるようにする。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、アロマセラピーとは
2. 精油の基礎知識①, アロマクラフト作成（スプレー）
3. 精油の基礎知識②, アロマクラフト作成（バスソルト）
4. メカニズムと健康学, アロマクラフト作成（発砲バスソルト）
5. アロマセラピーの歴史, アロマクラフト作成（ボディシャンプー）
6. ハーブについて, アロマクラフト作成（フェイスパック）
7. アロマセラピーの基材, アロマクラフト作成（化粧水）
8. アロマセラピーの利用法（ハンドトリートメント①）
9. アロマセラピーの利用法（ハンドトリートメント②）
10. アロマセラピーの利用法（フットトリートメント①）
11. アロマセラピーの利用法（フットトリートメント②）
12. アロマセラピーの利用法（ハンド・フットトリートメント総合）
13. アロマセラピーの利用法（フェイシャルトリートメント①）
14. 資格制度と活動分野, アロマクラフト作成（ハンドクリーム）
15. 実技試験

成績の評価

筆記試験70%、実技試験30%にて評価

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

使用した精油の香りについてのイメージや感想を忘れず、学んだ内容をしっかりと復習する。また、作成したアロマクラフトを自分自身で使用し、次回に活かせるように使用感や感想をしっかりと覚えておく。

テキスト

プリント配布

参考資料

アロマセラピー検定公式テキスト1級

アロマセラピー検定公式テキスト2級

オフィスアワー

火曜日 16:00~18:00

研究室・授業用E-mail

3号館3階 HP教員室

yamahara@kansai.ac.jp

講義コード	4J024011
講義名	スポーツ理学療法特論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	発展科目
科目ナンバリング	J4-2419
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 隆紀	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

吉田隆紀(理学療法士・スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・日本トレーニング指導者)
 谷埜予士次((理学療法士)
 中尾哲也(理学療法士・スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・日本トレーニング指導者)
 三浦雄一郎(理学療法士)

目的

近年、スポーツ外傷や障害について関わる機会が増してきた理学療法士としての役割について学ぶ。加えてスポーツ外傷・障害におけるリハビリテーションプログラムの検討方法や具体的な理学療法アプローチについて講義・実習する。

到達目標

代表的なスポーツ外傷や障害について取り上げて、受傷機転の理解、スポーツ動作の分析と問題点の把握や再発予防に関するポイントと理学療法を考えられるようになることを目標とする。

授業計画表

授業計画

- | | |
|---------------------|-------|
| 1. 筋腱損傷後の理学療法① | 谷埜予士次 |
| 2. 筋腱損傷後の理学療法② | 谷埜予士次 |
| 3. 靭帯損傷後の理学療法 | 谷埜予士次 |
| 4. スポーツバイオメカニクス | 谷埜予士次 |
| 5. 投球障害肩の理学療法 | 吉田隆紀 |
| 6. 投球障害肘の理学療法 | 吉田隆紀 |
| 7. 足関節捻挫後の理学療法 | 吉田隆紀 |
| 8. テーピング | 吉田隆紀 |
| 9. シンスプリントに対する理学療法 | 中尾哲也 |
| 10. 腰椎分離症に対する理学療法 | 中尾哲也 |
| 11. 鼠径部痛に対する理学療法 | 中尾哲也 |
| 12. インソール補正テーピング療法 | 中尾哲也 |
| 13. スポーツ動作の特徴と理学療法① | 三浦雄一郎 |
| 14. スポーツ動作の特徴と理学療法② | 三浦雄一郎 |
| 15. スポーツ理学療法まとめ | 吉田隆紀 |

成績の評価

定期試験によって評価する。(100%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

スポーツ動作を改善するために理学療法を展開しますが、解剖学や運動学を基本とするため再度学習しておいてください。授業1コマにつき1コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

スポーツ特有の動きがあるため、スポーツ動作を観察して動きをイメージできるようにしておいてください。

テキスト

資料を配布します。

オフィスアワー

月曜日の12:10~13:00 (谷埜)

水曜日と金曜日以外の12:10~13:00 (吉田)

月曜日~木曜日の12:30~13:00 (中尾)

研究室・授業用E-mail

4号館7階D723研究室 (谷埜) ・ tanino@kansai.ac.jp
D719研究室 (吉田) ・ t.yoshida@kansai.ac.jp
D719研究室 (中尾) ・ nakao@kansai.ac.jp

講義コード	4J032011
講義名	フィットネス実習II
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J4-2412.S
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

相澤 慎太（健康運動指導士 スポーツプログラマー）

目的

最も適当な運動負荷を行う上で対象者の運動能力を知ることは重要なことである。そこで、本講座では体力測定の方法とその判定方法を学ぶとともに実際に測定、判定を行う。また、体力測定の結果を基にしてフィットネスプログラムを実際に作成しそれらを実際に行ってみる。また担当教員の経験も紹介し、実践に役立つ知識を学習することを目的とする。

到達目標

個別性に対応したフィットネスプログラムを作成できるようにする。
健康運動・スポーツ指導の実践力を身につける。

授業計画表

授業計画

1. 体力測定の方法①
2. 体力測定の方法②
3. 体力評価とスポーツプログラム①
4. 体力評価とスポーツプログラム②
5. フィットネスプログラムの基本的な方法①
6. フィットネスプログラムの基本的な方法②
7. フィットネスプログラムの基本的な方法③
8. フィットネスプログラムの基本的な方法④
9. 子どものフィットネスプログラム
10. 中年のフィットネスプログラム
11. 高齢者のフィットネスプログラム
12. 女性のフィットネスプログラム
13. 障害者フィットネスプログラム
14. スポーツ相談の実際
15. スポーツ相談の実際

成績の評価

レポート課題50% 実技試験50%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は公認スポーツプログラマーの認定科目となっている。

テキスト

「公認スポーツプログラマー専門科目テキスト」（日本体育施設協会）

オフィスアワー

木曜日

12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟 3階 313研究室

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	4J033011
講義名	マイオケア（トリガー理論）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J4-2416
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 共一	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

黒岩共一（按摩・マッサージ・指圧師）

目的

トリガーポイントとは運動器慢性疼痛とCRPS起因痛の発生源を指す。前者のトリガーポイントに関する基礎的知識を学び、運動器慢性痛の治療におけるトリガーポイント治療の必要性を理解する。またトリガーポイント治療の基本となる、トリガーポイントの探し方や身体深部の加圧技術を身に付ける。

到達目標

運動器慢性疼痛の主要な責任トリガーポイントに触ることができ、実臨床で活用できる。

授業計画表

授業計画

1. 講義；トリガーポイントとは
2. 講義；トリガーポイント治療の適応判断とトリガーポイント検索技術
3. 講義；頸・肩の凝り・疼痛、頭痛、めまいのトリガーポイント
4. 実習；頸・肩凝りのトリガーポイント 1
5. 実習；頸・肩凝りのトリガーポイント 2
6. 実習；頸・肩凝りのトリガーポイント 3
7. 実習；頸・肩凝りのトリガーポイント 4
8. 実習；頭痛・歯痛のトリガーポイント
9. 講義；腰痛のトリガーポイント 1
10. 実習；腰痛のトリガーポイント 2
11. 実習；腰痛のトリガーポイント 3
12. 実習；腰痛のトリガーポイント 4
13. 実習；坐骨神経痛のトリガーポイント 1
14. 実習；坐骨神経痛のトリガーポイント 2
15. 実技テスト

成績の評価

実技試験100%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後に実技評価を個人研究室（診療・研究棟³⁰⁶研究室）にて開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）の予習と復習を行うこと。実習する骨格筋について、解剖学、運動学のテキストで基本事項を調べる（予習）。講義では臨床解剖学や他の雑誌記載の最新情報を教える。それらテキストや雑誌の記述とは矛盾する臨床観察で得た事例も伝えるので、整合性がとれるよ

う関連事項を調べてテキストに書き入れる(復習)。

テキスト

配布プリント

参考資料

「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院)

「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」(大峰閣)

オフィスアワー

水曜 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

306研究室/ kuroiwa@kansai.ac.jp

講義コード	4J054011
講義名	医療経営学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J4-2315
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 大西 暁	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

大西暁〔税理士・医療経営コンサルタント〕

目的

皆さんが将来社会人になった時に役に立つよう、お金に関する知識を幅広く身に付けることができる講義にしていきます。

たとえ整骨院の開業を考えておられない方でも、お金に関する知識はきっと役に立つはずです。積極的にご参加ください。

到達目標

世の中の仕組みを知ったうえで、自分自身の考えで今後の人生を選択できるよう、基本的な考え方を身に付けることを目標としています。

授業計画表

授業計画

1. どうすれば自分の価値を高めることができるのか①
2. どうすれば自分の価値を高めることができるのか②
3. 自分の給料を上げる方法
4. 給料の金額ってどうやって決まるの？
5. あの気になるお店ってどれだけ儲かっているの？①
6. あの気になるお店ってどれだけ儲かっているの？②
7. 流行っていたお店がなぜ潰れたの？
8. どれだけ貯金をしていると人生安泰？①
9. どれだけ貯金をしていると人生安泰？②
10. 将来自宅を購入したいけど、賃貸とどちらが得なの？
11. 給与から天引きされている税金や社会保険ってなに？①
12. 給与から天引きされている税金や社会保険ってなに？②
13. 車を分割で購入するってどういうこと？
14. 自分の人生を豊かにするためにはどうすればいいの？①
15. 自分の人生を豊かにするためにはどうすればいいの？②

成績の評価

テスト（100%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

自己学習

具体的になにか予習や復習が必要ではないが、授業で身に付けた知識や考え方を、日々の生活の

なかで実践できるよう意識してください。

テキスト

なし

オフィスアワー

月曜日 12:10~12:40

研究室・授業用E-mail

ohnishi@ohnishikaikei.com

講義コード	4J118011
講義名	健康スポーツ理論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J4-2414.S
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

相澤 慎太 （健康運動指導士 スポーツプログラマー）

目的

適切な運動は身体的にも精神的にも良い影響があることが知られている。本講座では運動を実際に行ったり、指導したりする上で必要な基礎知識を習得することを目的に、以下の事項について講義する。

また担当教員の経験も紹介し、実践に役立つ知識を学習することを目的とする。

到達目標

健康・体力を管理する基本的な知識や方法を理解する。

授業計画表

授業計画

1. 運動と健康
2. フィットネス・エクササイズの理論①
3. フィットネス・エクササイズの理論②
4. フィットネス・エクササイズの理論③
5. フィットネス・エクササイズと健康管理①
6. フィットネス・エクササイズと健康管理②
7. ウォーミングアップとクーリングダウン
8. フィットネスプログラムの基本的な方法①
9. フィットネスプログラムの基本的な方法②
10. 子どものフィットネスプログラム
11. 中、高年者のフィットネスプログラム
12. 女性のフィットネスプログラム
13. 障害者のフィットネスプログラム
14. スポーツ相談の意義と実際
15. まとめ

成績の評価

レポート50% 定期試験50%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

「スポーツプログラマー」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。

テキスト

「公認スポーツプログラマー専門科目テキスト」（日本体育施設協会）

「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（日本スポーツ協会）

オフィスアワー

木曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

診療研究棟3階・313研究室

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	4J178011
講義名	神経科学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J4-2311
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大島 稔	指定なし

目的

近年、脳神経系を中心とした神経科学は、その情報処理機構を解明することや、精神活動の機構を解明するとともに、脳神経系の病気に対する予防や治療法の開発など様々な分野において発展しつつある。この講義では、それらを理解するための神経系の基本的な概念について講義する。

到達目標

神経が、どのようにして構成されているのか、どのようにして興奮の伝導と伝達が行われるのかなど、下記に記した授業計画の基本的なことを理解できることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 神経系の分類
2. 神経の構造と機能
3. 興奮の伝導と伝達
4. 興奮の伝導と伝達
5. 大脳の構造と機能
6. 間脳と脳幹、小脳、脊髄の構造と機能
7. 伝導路
8. 末梢神経系
9. 自律神経系
10. 生体のリズム
11. 運動(神経筋接合部と運動単位)
12. 運動(反射、基底核と小脳疾患)
13. 視覚
14. 聴覚と味覚、嗅覚
15. 体性感覚

成績の評価

試験(100点)で評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

参考資料

「生理学」(南江堂)

オフィスアワー

月曜日 16:30~17:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階404研究室
ohshima@kansai.ac.jp

講義コード	4J214011
講義名	整復総合演習Ⅰ
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J4-4001
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高岸 美和	指定なし
教員	五十嵐 純	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

高岸 美和、津田 和志、尾原 弘恭、井口 理、織田 育代、山原 正美

目的

現状まで、各履修してきた臨床医学(一般臨床医学・運動学・外科学・整形外科学・リハビリテーション医学)を、実際に柔道整復を実践する際、その判断材料として活かせるよう総合的・応用的な知識としてつなげることを目的とする。

到達目標

臨床医学野内容と柔道整復とをリンクさせ理解し実践へつなげられる知識を得ることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 柔道整復と臨床医学1 (高岸)
2. 柔道整復と臨床医学2 (高岸)
3. 柔道整復と臨床医学3 (高岸)
4. 柔道整復と臨床医学4 (高岸)
5. 柔道整復と臨床医学5 (高岸)
6. 柔道整復と臨床医学6 (尾原)
7. 柔道整復と臨床医学7 (尾原)
8. 柔道整復と臨床医学8 (井口)
9. 柔道整復と臨床医学9 (井口)
10. 柔道整復と臨床医学10 (井口)
11. 柔道整復と臨床医学11 (井口)
12. 柔道整復と臨床医学12 (織田)
13. 柔道整復と臨床医学13 (織田)
14. 柔道整復と臨床医学14 (織田)
15. 柔道整復と臨床医学15 (織田)
16. 柔道整復と臨床医学16 (山原)
17. 柔道整復と臨床医学17 (山原)
18. 柔道整復と臨床医学18 (山原)
19. 柔道整復と臨床医学19 (山原)
20. 柔道整復と臨床医学20 (山原)
21. 柔道整復と臨床医学21 (山原)
22. 柔道整復と臨床医学22 (山原)
23. 23

- 柔道整復と臨床医学 (山原)
24. 柔道整復と臨床医学24 (山原)
25. 柔道整復と臨床医学25 (山原)
26. 柔道整復と臨床医学26 (山原)
27. 柔道整復と臨床医学27 (山原)
28. 柔道整復と臨床医学28 (山原)
29. 柔道整復と基礎医学の総合的まとめ1 (津田)
30. 柔道整復と臨床医学の総合的まとめ2 (津田)

成績の評価

試験100%にて評価。なお詳細についてはガイダンス時に説明を行う。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

3年次までに学習した臨床医学（一般臨床医学・外科学・整形外科学・運動学・リハビリテーション医学）の知識の再確認を事前にしておくこと。

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

この科目は柔道整復師の国家試験ともつながる科目であるので、各自が国家試験を想定して積極的に学習することを望む。毎回、出席を確認し、遅刻³回につき¹回の欠席とする。

テキスト

臨床医学に関する教科書

参考資料

「柔道整復師国家試験出題基準」 (医歯薬出版社)

3年次までに当該科目で指定された参考図書

オフィスアワー

前期：月曜 放課後（16:40～18:00）

後期：木曜 放課後（16:40～18:00）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 415研究室 takagishi@kansai.ac.jp (高岸)

講義コード	4J215011
講義名	整復総合演習Ⅱ
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J4-4002
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

五十嵐 純、畑村 育次、戸村 多郎、高岸 美和

目的

現状まで、各履修してきた基礎的な医学（解剖・生理・病理）の内容を実際に柔道整復師として臨床に対応する際に、その判断材料として活かせるよう総合的・応用的な知識としてつなげることを目的とする。

到達目標

基礎的な医学と柔道整復とをリンクさせ理解し実践へつなげられる知識を得ることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 柔道整復と基礎医学1（五十嵐）
2. 柔道整復と基礎医学2（五十嵐）
3. 柔道整復と基礎医学3（五十嵐）
4. 柔道整復と基礎医学4（五十嵐）
5. 柔道整復と基礎医学5（五十嵐）
6. 柔道整復と基礎医学6（五十嵐）
7. 柔道整復と基礎医学7（五十嵐）
8. 柔道整復と基礎医学8（五十嵐）
9. 柔道整復と基礎医学9（五十嵐）
10. 柔道整復と基礎医学10（五十嵐）
11. 柔道整復と基礎医学11（五十嵐）
12. 柔道整復と基礎医学12（高岸）
13. 柔道整復と基礎医学13（高岸）
14. 柔道整復と基礎医学14（高岸）
15. 柔道整復と基礎医学15（高岸）
16. 柔道整復と基礎医学16（高岸）
17. 柔道整復と基礎医学17（高岸）
18. 柔道整復と基礎医学18（高岸）
19. 柔道整復と基礎医学19（高岸）
20. 柔道整復と基礎医学20（高岸）
21. 柔道整復と基礎医学21（高岸）
22. 柔道整復と基礎医学22（高岸）
23. 柔道整復と基礎医学23（高岸）
24. 柔道整復と基礎医学24（畑村）

25. 柔道整復と基礎医学25 (畑村)
26. 柔道整復と基礎医学26 (畑村)
27. 柔道整復と基礎医学27 (畑村)
28. 柔道整復と基礎医学28 (畑村)
29. 柔道整復と基礎医学の総合的まとめ1 (戸村)
30. 柔道整復と基礎医学の総合的まとめ2 (戸村)

成績の評価

試験100%にて評価。なお詳細についてはガイダンス時に説明を行う。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

3年次までに学習した基礎医学（解剖・生理・病理）の内容について、再度自主的に学習し知識の再確認を事前しておくこと。また、講義終了後、知識が不十分なところの復習を行うこと。授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

この科目は柔道整復師の国家試験ともつながる科目であるので、各自が国家試験を想定して積極的に学習することを望む。毎回、出席を確認し、遅刻3回につき1回の欠席とする。

テキスト

解剖学・生理学・病理学の教科書

参考資料

「柔道整復師国家試験出題基準」 (医歯薬出版株式会社)
(財)柔道整復研修試験財団 編

オフィスアワー

木曜の12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室 igarashi@kansai.ac.jp (五十嵐)

講義コード	4J216011
講義名	整復総合演習Ⅲ
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J4-4003
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 尾原 弘恭	指定なし
教員	五十嵐 純	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

尾原 弘恭、植田 扶美子、井口 理、織田 育代、山原 正美

目的

現状まで、各履修してきた整復学総論・整復学各論・実技Ⅰ～Ⅵと、柔道整復を実践する際に必要な関係法規・衛生・公衆衛生学とを横断的に学修し柔道整復の実践へと活かせるようにする。

到達目標

柔道整復を実践する際に必要な総論・各論や関係諸法規・衛生・公衆衛生学を理解し各内容をリンクさせ理解し実践へつなげられる知識を得ることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 柔道整復 1 (織田)
2. 柔道整復 2 (織田)
3. 柔道整復 3 (織田)
4. 柔道整復 4 (織田)
5. 柔道整復 5 (尾原)
6. 柔道整復 6 (尾原)
7. 柔道整復 7 (尾原)
8. 柔道整復 8 (尾原)
9. 柔道整復 9 (尾原)
10. 柔道整復10 (尾原)
11. 柔道整復11 (尾原)
12. 柔道整復12 (尾原)
13. 柔道整復13 (尾原)
14. 柔道整復14 (井口)
15. 柔道整復15 (井口)
16. 柔道整復16 (井口)
17. 柔道整復17 (井口)
18. 柔道整復18 (井口)
19. 柔道整復19 (井口)
20. 柔道整復20 (井口)
21. 柔道整復21 (井口)
22. 柔道整復と衛生・公衆衛生1 (植田)
23. 柔道整復と衛生・公衆衛生2 (植田)
- 24.

- 柔道整復と衛生・公衆衛生（植田）
25. 柔道整復と衛生・公衆衛生4（植田）
26. 柔道整復と関係法規1（山原）
27. 柔道整復と関係法規2（山原）
28. 柔道整復と関係法規3（山原）
29. 柔道整復総合的まとめ1（井口）
30. 柔道整復総合的まとめ2（井口）

成績の評価

試験100%にて評価。なお詳細についてはガイダンス時に説明を行う。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

3年次までに学習した柔道整復関係医学（整復学総論・各論・関係法規・衛生・公衆衛生学）の知識の再確認を事前しておくこと。

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

この科目は柔道整復師の国家試験ともつながる科目であるので、各自が国家試験を想定して積極的に学習することを望む。毎回、出席を確認し、遅刻³回につき¹回の欠席とする。

テキスト

整復学総論・各論・関係法規・衛生・公衆衛生学に関する教科書

参考資料

「柔道整復師国家試験出題基準」（医歯薬出版社）

(財)柔道整復研修試験財団 編

3年次までに当該科目で指定された参考図書

オフィスアワー

水曜：午後

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 310研究室 ohara@kansai.ac.jp（尾原）

講義コード	4J217011
講義名	整復臨床実習
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	整復実技分野
科目ナンバリング	J4-4101
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 尾原 弘恭	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

尾原弘恭〔柔道整復師〕
井口理〔柔道整復師〕
織田育代〔柔道整復師〕
山原正美〔柔道整復師〕
中西康将〔柔道整復師〕

目的

大学附属接骨院において実施される。臨床実習を通じて3年次までに学習してきた各分野を総合的にリンクさせ、理解を深めることや技術の向上を目的とする。

なお、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。

本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援する。

到達目標

臨床の現場における仕事の流れを理解するとともに、患者様の状態を評価する。それに対する施術プログラムを立案し、施術や指導をするために必要な柔道整復実技と総合的な知識を習得することを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. 情報収集・問診
3. 医師との連携
4. 療養費支給基準①
5. 療養費支給基準②
6. 療養費支給基準③
7. 整復臨床実習①
8. 整復臨床実習②
9. 整復臨床実習③
10. 整復臨床実習④
11. 整復臨床実習⑤
12. 整復臨床実習⑥
13. 整復臨床実習⑦
14. 整復臨床実習⑧
15. 総合実技演習①
16. 総合実技演習②

17. 総合実技演習③
18. 総合実技演習④
19. 整復臨床実習⑨
20. 整復臨床実習⑩
21. 整復臨床実習⑪
22. 整復臨床実習⑫
23. 整復臨床実習⑬
24. 整復臨床実習⑭
25. 整復臨床実習⑮
26. 整復臨床実習⑯

成績の評価

整復臨床実習総合試験で評価し判定する（100%）。但し、この試験は整復臨床実習総合中間試験（全3回）をすべて受験すること、整復臨床実習総合実技試験に合格すること、整復臨床実習レポートに合格することのすべてを満たすことが受験要件となる。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。レポートは各担当した学生へ返却する際にフィードバックを実施する。

自己学習

3年次までに学習してきた内容を実習前までに予習し、実習後はレポート課題に加えて理解できていなかった点や解決できなかった疑問点について調べて復習すること。

テキスト

「柔道整復学 理論編」（南江堂）

「柔道整復学 実技編」（南江堂）

その他臨床に関連する教科書

オフィスアワー

前期：水曜日 13:00～17:00

後期：木曜日 13:00～17:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階310研究室

ohara@kansai.ac.jp

講義コード	4J259011
講義名	中医学概論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J4-2314
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 王 財源	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

王財源 （鍼師・灸師）

目的

薬膳学の基本概念のひとつに「医食同源」ということばがあります。「すべての食べものは薬に通じる」という考え方です。人は「美しく、健康でありたい」という願いがあり、食の文化のなかでは、薬膳にこれらの知恵が生かされています。本講義では中国哲学と中国伝統医学との相関関係を学び、古代中国の自然観の一つである陰陽や五行を用いて、日常の臨床現場で患者さんの身体の健康を補うために薬膳を習熟します。中国の伝統医療文化に脈打つ人体、生理観について知識を深め、現代人の食生活の改善による、美しく、健康でありたいという「食の文化」を学問的に考察します（中医薬膳）。

到達目標

1. 中国伝統医療文化を学ぶことで「薬膳」に対する思考能力を養う。
2. 中国伝統医学を軸足とした「薬膳」指導能力者の育成を目指す。

授業計画表

授業計画

1. 歴史の変遷を通じて学ぶ中国伝統医学（中医学）
2. 中国哲学に通じる「気」と「食」の医学
3. 「食」が薬であるという考え方
4. 陰陽論と五行学説よりみる中国伝統医学の体質論
5. テーラーメイド医療と中医薬膳学
6. 体内情報のネットワーク「経絡」と健康
7. 中医薬膳学とその特徴
8. 中国伝統医学における「食」の捉え方
9. 虚弱体質に対する薬膳の概念
10. 薬膳料理の基本
11. 体質に合わせた薬膳
12. 臓腑の働きを促し症状を改善する薬膳
13. 若さを保ち続ける養生食について
14. 美容美肌と老化防止の薬膳学
15. 総括・質問

成績の評価

定期試験90%・レポート10%にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

1. 定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

1. 短期間の学習となるため、複数ある参考文献を用いて中国伝統医学に対する予備知識を高めて置くことで 聴講の助けとなります。

2. 授業1コマにつき2コマ (180分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

『中医薬膳学』(東洋学術出版社)

参考資料

『わかりやすい臨床中医臓腑学』 3版(医歯薬出版)

『入門・目でみる臨床中医診断学』(医歯薬出版)

『美容と東洋医学』(静風社)

オフィスアワー

木曜日 12:30~14:00

面談時には事前にメールで連絡してください。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 413号室

E-mail:cai@kansai.ac.jp

講義コード	4J271011
講義名	統合医療（代替医療）Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J4-2309
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 上田 至宏	指定なし

目的

医療には、技術革新が進む先端医療をはじめとした近代西洋医学と地域文化・伝統に根ざした多様な伝統医学や相補・代替医療があります。統合医療とは、西洋医学にそれら医療を加えることによって、患者が自ら癒すことを重視し、病気の治療から疾病の超早期発見や予防、根治、健康維持の増進などを目指そうするものです。

そこで患者が本当に必要な医療を自らの意志で選択し得る、そんな医療環境が整っていくためにも、統合医療の体系化が求められます。ここでもっとも重要となるのは、各医学の特長と課題を正しく把握し、患者本位のより良い医療を知る姿勢です。

こうした背景をもとに、ヘルスプロモーションを志す諸君らに統合医療の推進役として大きな期待が寄せられています。この講義では統合医療の考え方の基礎を学び将来の柔道整復師像を描いていただくことを目的とします。

到達目標

統合医療について説明できる。

伝統医療・代替医療について説明できる。

授業計画表

授業計画

1. 統合医療について、総論
2. 伝統医療と代替医療
3. 代替医療の歴史と現状
4. IM研究（EBM）、治療と治癒
5. 伝統医療（1）（東アジア：日中韓）
6. 伝統医療（2）（アーユルベータ）
7. 伝統医療（3）（チベット医学）
8. 伝統医療（4）（密教医学）
9. 伝統医療（5）（上記以外）
10. 代替医療（1）（ホメオパシー）
11. 代替医療（2）（エネルギー療法）
12. 代替医療（3）（呼吸療法、色彩療法）
13. 代替医療（4）（催眠療法、音楽療法）
14. 代替医療（5）（心身医学）
15. 代替医療（6）（その他）

成績の評価

レポートと平常点により評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

授業中にレポートの解説を実施する。

自己学習

こちらから課す項目をインターネット等で調べ、講義の中で各自の意見考えを述べていただけるように。

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

参考資料

- ・「癒す心・治る力」 (角川書店)
- ・インターネットで各自が調べてください。

講義コード	4J272011
講義名	統合医療（代替医療）Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J4-2310
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 上田 至宏	指定なし

目的

統合医療（代替医療 Ⅰ）に同じ
後期では食と栄養、健康/ウエルネスについて考える。

到達目標

機能的食品・健康食品等について説明できる。
健康と予防について統合医療の立場から説明できる。
今必要な統合医療と医療経済について説明できる。

授業計画表

授業計画

1. 食と栄養（1）栄養医学
2. 食と栄養（2）サプリメント
3. 食と栄養（3）機能的食品
4. 食と栄養（4）ハーブと伝統食
5. 食と栄養（5）その他
6. 健康/ウエルネス（1）考え方
7. 健康/ウエルネス（2）ホメオスタシス
8. 健康/ウエルネス（3）心とからだ
9. 健康/ウエルネス（4）老化予防
10. 健康/ウエルネス（5）予防プログラム
11. 健康/ウエルネス（6）生きがい
12. 徒手医学、温熱療法
13. 瞑想、座禅
14. 統合医療と医療経済
15. 統合医療まとめ、質疑応答

成績の評価

レポートと授業への取り組み度により評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

授業中にレポートの解説を実施する。

自己学習

統合医療（代替医療 Ⅰ）に同じ

履修上の注意

統合医療（代替医療 Ⅰ）に同じ

参考資料

統合医療（代替医療 Ⅰ）に同じ

講義コード	4J318011
講義名	保健医療福祉概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	保健医療福祉と柔道整復の理念
科目ナンバリング	J4-2205
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 武田 眞太郎	指定なし

目的

ヘルスプロモーションの考えを基本として、人びとの健康権を保障する保健・医療・福祉のそれぞれの役割、制度、専門職の職務について総合した概要を述べる。

到達目標

本科の卒業後の進路としては独立開業だけではなく、種々の医療・福祉施設など幅広い分野が想定される。これらの保健・医療・福祉の各分野の社会的役割が認識できることをねらう。

授業計画表

授業計画

1. 人々の基本的権利としての「健康権」をめぐって
2. 健康権を保障する保健・医療・福祉の役割
3. 保健。医療・福祉が目指す社会像
4. 保健・医療・福祉の専門性
5. 保健・医療制度の大綱
6. 社会保障制度の大綱
7. 社会保障制度の現状
8. 社会保障制度の課題
9. 経済発展と人口構造の変化
10. 経済発展と疾病構造の変化
11. 少子高齢社会の利点と欠点
12. 個を中心に据えた保健・医療・福祉の連携と連携システムの在り方
13. 保健・医療・福祉にかかわる専門職の職務
14. 保健・医療・福祉の専門性と個人情報
15. 総括および質疑応答

成績の評価

筆答による期末試験を実施 (100%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

期末試験終了後に模範答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「エビデンスにもとづく公衆衛生学」(培風館)およびプリント配布

参考資料

関係の箇所、適宜紹介する。

オフィスアワー

とくに設定しないので、希望があれば、事前に予約すること。

講義コード	4J338011
講義名	薬学概論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J4-2312
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大西 基代	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

大西 基代(薬剤師)

目的

薬の発見とその開発について歴史的な背景をふまえ概略を学ぶ事に講義の目的とする。近年注目を浴びているジェネリック医薬品の紹介等、身近な医薬品を例に挙げ説明をする。

到達目標

薬とは何か、薬物とは何か、またどのように開発されるのかが理解できる事を目標とする。

授業計画表

授業計画

講義概要

1. 薬とはなにか
2. 薬の名前 ジェネリック医薬品
3. 医薬品の分類, 医療制度
4. 薬の作用(薬がなぜ効くのか)
5. 薬の作用(薬がなぜ効くのか)
6. 医薬品開発
7. 天然物からの医薬品(キニーネ, キニジン)
8. 薬害と薬事行政の変革Ⅰ
9. 薬害と薬事行政の変革Ⅱ
10. 天然物からの医薬品検索(モルヒネ, 麻薬)
11. 天然物からの医薬品検索(エフェドリン, 覚せい剤)
12. 天然物からの医薬品検索(抗腫瘍薬)
13. 糖尿病の治療薬
14. 脂質代謝異常症の治療薬
15. 免疫と薬

成績の評価

レポート70% 授業中の提出物30% で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

配布資料で行う。

参考資料

「『資源天然物化学』（共立出版）
その他，講義中に紹介する。

オフィスアワー

月曜日 12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

管理棟 2階209研究室・onisi@kansai.ac.jp

講義コード	4J348011
講義名	臨床疫学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J4-2313
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 尉林 鈴	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

尉林 鈴

目的

医学・医療の世界では医学推計学は必須の学問になっている。疫学（Epidemiology）はある集団を対象として疾病頻度とその分布を観察し、その原因を究明する学問である。本講座は臨床研究を含む社会健康医学領域において、最も基本となる疫学の考え方、方法論についての入門的な講義を行う。受講者は将来、医療人として現場で働くときに役立つ臨床疫学について学習する。

到達目標

身につけた臨床疫学の基礎知識に基づいて、現場で出会った様々な症例の診断や治療、さらに予防の妥当性を評価できる。

授業計画表

授業計画

1. 第1週：臨床医学概論①
2. 第2週：臨床疫学概論②
3. 第3週：疫学の具体例①
4. 第4週：疫学の具体例②
5. 第5週：因果関係
6. 第6週：疾病の自然史
7. 第7週：疫学研究デザイン①記述疫学
8. 第8週：疫学研究デザイン②分析疫学
9. 第9週：疫学研究デザイン③実験疫学
10. 第10週：課題研究提出
11. 第11週：課題研究検討①
12. 第12週：課題研究検討②
13. 第13週：臨床疫学の具体例
14. 第14週：筆記試験
15. 第15週：まとめ

成績の評価

平常課題結果を50%、筆記試験結果を50%の割合で総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

平常課題終了後、および定期試験終了後、いずれの時点で模範解答を開示する。

自己学習

授業時に配布したプリントと次回の指定範囲を予め予習しておくことが望ましい。
授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

プリント配布

参考資料

「EBMがわかる 疫学と臨床判断」（新興医学出版社）

「疫学入門演習—原理と方法—」（南山堂）

「疫学—原理と方法—」（丸善株式会社）

オフィスアワー

授業終了後、そのまま教室にて不明な点や質問等を受け付ける。

講義コード	4J359011
講義名	臨床整復学
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J4-3009
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 門脇 伸幸	指定なし

目的

実戦に即した力をつける。

到達目標

日常の臨床・実践に即した考え方・実技を学ぶ。

授業計画表

授業計画

1. 臨床の理論・各論・実践（上肢） 1
2. 臨床の理論・各論・実践（上肢） 2
3. 臨床の理論・各論・実践（上肢） 3
4. 臨床の理論・各論・実践（上肢） 4
5. 臨床の理論・各論・実践（上肢） 5
6. 臨床の理論・各論・実践（上肢） 6
7. 臨床の理論・各論・実践（上肢） 7
8. 臨床の理論・各論・実践（上肢） 8
9. 臨床の理論・各論・実践（上肢） 9
10. 臨床の理論・各論・実践（上肢） 10
11. 臨床の理論・各論・実践（体幹） 1
12. 臨床の理論・各論・実践（体幹） 2
13. 臨床の理論・各論・実践（体幹） 3
14. 臨床の理論・各論・実践（体幹） 4
15. 臨床の理論・各論・実践（体幹） 5
16. 臨床の理論・各論・実践（体幹） 6
17. 臨床の理論・各論・実践（体幹） 7
18. 臨床の理論・各論・実践（体幹） 8
19. 臨床の理論・各論・実践（体幹） 9
20. 臨床の理論・各論・実践（体幹） 10
21. 臨床の理論・各論・実践（下肢） 1
22. 臨床の理論・各論・実践（下肢） 2
23. 臨床の理論・各論・実践（下肢） 3
24. 臨床の理論・各論・実践（下肢） 4
25. 臨床の理論・各論・実践（下肢） 5
26. 臨床の理論・各論・実践（下肢） 6
27. 臨床の理論・各論・実践（下肢） 7
28. 臨床の理論・各論・実践（下肢） 8
29. 臨床の理論・各論・実践（下肢） 9
- 30.

臨床の理論・各論・実践（下肢） 10

成績の評価

筆記試験（100%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

理論・各論の再予習・テーピング・固定の復習。

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

その都度配布

講義コード	4J711011
講義名	リフレクソロジー
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J4-2417
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松浦 穰士	指定なし

目的

リフレクソロジーとは、「足裏には人の全身が縮図のように投影されている」という考え方があり、その足裏にある全身の縮図である「反射区」を刺激する理論です。この講義では、開業をした時に少しでも役立つよう、手や刺激棒を使った正しい刺激の方法を学びます。

到達目標

足裏は「第二の心臓」とも呼ばれ、足裏には各器官や臓器に繋がる反射区があると考えられています。リフレクソロジーを行う上で、足裏を中心とした正しい解剖や足部の診かたや、反射区の場所と刺激方法を覚えてもらい、老若男女に喜んでもらえるような理論と実技を目指します。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、リフレクソロジーとは
2. 下腿部の解剖
3. 足部・足底部の解剖
4. 足部の診かた
5. 足のリフレクソロジー理論
6. 手技のテクニック
7. 内分泌（脳下垂体・甲状腺等）に対する理論と実技
8. 消化器に対する理論と実技
9. 呼吸器に対する理論と実技
10. 泌尿器に対する理論と実技
11. 循環器に対する理論と実技
12. 生殖器に対する理論と実技
13. 疾患別に対する実技
14. 実技試験
15. 講義のまとめ

成績の評価

実技試験 (100%)

自己学習

各項目で説明する安全な刺激法を復習して授業に臨むこと。
授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

毎回の講義でプリント配布を配布します。

ベビーパウダーを使うこともあります。
「スポーツマッサージ」(KATA実技指導員著)

参考資料

適宜紹介します。

オフィスアワー

水曜日 12:30~13:00

講義コード	4J712011
講義名	ヨーガ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J4-2418
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 珠数 孝	指定なし

目的

ヨガ（YOGA）は、今や世界的に広がり、一般社会でも広く応用活用されている。
 日本に於いては、1980年国際総合ヨガ世界大会を日本で開催（主催者 沖 正弘（故人））されて以後、急速に全国に普及した。
 今日では、ヨガは伝統文化（5～6千年以前からの伝統行法）として国連にも認定され、身体的な健康だけでなく、心身の調和と「生活全体の調整」法として世界中で取り組まれている。
 実習を主として、心身のセルフケアを経験し、リハビリテーション分野への応用を学ぶ。

到達目標

ヨガの基本哲学の理解する。
 ヨガの基本的身体操作法を理解する。
 ヨガ体操による歪み偏りの修正法の基礎を理解する。
 呼吸法の基礎を理解する。
 リラックス法および瞑想法への理解と実践習慣を身に着ける。

授業計画表

授業計画

1. 基本的なヨガの動作を体験する。
2. ヨガの動作、呼吸、瞑想の基礎づくり
3. ヨガの動作、呼吸、瞑想の基礎づくり
4. ヨガの動作、呼吸、瞑想の基礎づくり
5. ヨガの動作、呼吸、瞑想の基礎づくり
6. 個別に心身のゆがみ、偏りのあることに気づき、正しい修正法・矯正法を学ぶ。
7. 個別に心身のゆがみ、偏りのあることに気づき、正しい修正法・矯正法を学ぶ。
8. 個別に心身のゆがみ、偏りのあることに気づき、正しい修正法・矯正法を学ぶ。
9. 個別に心身のゆがみ、偏りのあることに気づき、正しい修正法・矯正法を学ぶ。
10. ヨガの歴史と道徳について学ぶ
11. ヨガの歴史と道徳について学ぶ
12. ヨガ本来の哲学性と教育性を理解する。
13. ヨガの動作、呼吸法を他にアドバイスできるようになる。
14. ヨガの動作、呼吸法を他にアドバイスできるようになる。
15. ヨガを自己の生活にどう生かすかを習得する。

成績の評価

授業態度（出席、取り組み姿勢）60%、レポート内容40%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業のない日に、毎日15分間の授業の復習を行うこと。
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

イノチが喜ぶ生活ヨガ（LEVEL社）

研究室・授業用E-mail

info@seikatuyoga.com

講義コード	4J739021
講義名	リハビリテーション論Ⅱ
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J4-2108
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 高 義富	指定なし

目的

臨床で要する評価、治療等を実践する上で多角的視野で論理的に物事が考えられる基盤をつくる。

到達目標

患者の障害像を把握し、治療プログラム等を立案できる思考過程を養う。

授業計画表

授業計画

1. 脳血管障害のリハビリテーション (1)
2. 脳血管障害のリハビリテーション (2)
3. 脳血管障害のリハビリテーション (3)
4. 脳血管障害のリハビリテーション (4)
5. 脳血管障害のリハビリテーション (5)
6. 脳血管障害のリハビリテーション (6)
7. 実習・実技
8. 実習・実技
9. 脊髄損傷のリハビリテーション (1)
10. 脊髄損傷のリハビリテーション (2)
11. 脊髄損傷のリハビリテーション (3)
12. 変形性関節症のリハビリテーション (1)
13. 変形性関節症のリハビリテーション (2)
14. 骨折のリハビリテーション (1)
15. 骨折のリハビリテーション (2)
16. リウマチのリハビリテーション (1)
17. リウマチのリハビリテーション (2)
18. リウマチのリハビリテーション (3)
19. 末梢神経障害のリハビリテーション (1)
20. 末梢神経障害のリハビリテーション (2)
21. 腰痛・五十肩のリハビリテーション
22. 関節可動域の異常
23. その他の運動器疾患のリハビリテーション
24. 実習・実技
25. 実習・実技
26. 糖尿病のリハビリテーション (1)
27. 糖尿病のリハビリテーション (2)
28. パーキンソン病のリハビリテーション
- 29.

呼吸・循環器系のリハビリテーション（1）
30. 呼吸・循環器系のリハビリテーション（2）

成績の評価

定期試験（80%）・平常点（受講態度などを含め20%）総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。
リハビリテーション論Ⅰの内容をよく復習しておくこと。

テキスト

「リハビリテーション医学（改訂版第3版）」

プリント配布

参考資料

「ベッドサイドの神経の診かた」（南山堂）

田崎義昭、斎藤佳雄共著